



BX GROUP

BXカネシン株式会社

東京都葛飾区奥戸 4-19-12

〒124-0022

http://www.kaneshin.co.jp/

2022年7月吉日

## ベースセッターの汎用性向上のための評価書改訂

ベースセッターの汎用性向上を図るべく、ベースセッター在来軸組工法用の評価改訂を行いました。また、設計者様への支援として、ベースセッターを使用した建物の設計に伴う構造計算ソフトの手順書も整備いたしました。（上記、構造計算ソフトの手順書については、弊社のホームページよりダウンロードをお願い致します。）

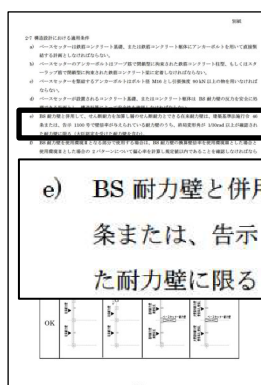
### (1) 併用壁規定の改訂

目的：

ベースセッターと併用して使用する耐力壁仕様を拡張することで、お客様の要望にあった建物の実現性が高まります。

変更前（評価書 P.9/17）：

BS 耐力壁と併用して、せん断耐力を加算し層のせん断耐力とできる在来耐力壁は、建築基準法施行令 46条または、告示 1100 号で壁倍率が与えられている耐力壁のうち、終局変形角が  $1/30\text{rad}$  以上が確認された耐力壁に限る（大臣認定を受けた耐力壁を含む）。

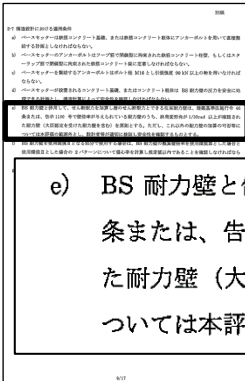


e) BS 耐力壁と併用して、せん断耐力を加算し層のせん断耐力とできる在来耐力壁は、建築基準法施行令 46 条または、告示 1100 号で壁倍率が与えられている耐力壁のうち、終局変形角が  $1/30\text{rad}$  以上が確認された耐力壁に限る（大臣認定を受けた耐力壁を含む）。

変更後（評価書 P.9/17）：

BS 耐力壁と併用して、せん断耐力を加算し層のせん断耐力とできる在来耐力壁は、建築基準法施行令46条または、告示1100 号で壁倍率が与えられている耐力壁のうち、終局変形角が $1/30\text{rad}$  以

上が確認された耐力壁（大臣認定を受けた耐力壁を含む）を原則とする。ただし、これ以外の耐力壁の加算の可否等については本評価の範囲外とし、設計者等が適切に検証し安全性を確認するものとする。



e) BS 耐力壁と併用して、せん断耐力を加算し層のせん断耐力とできる在来耐力壁は、建築基準法施行令 46 条または、告示 1100 号で壁倍率が与えられている耐力壁のうち、終局変形角が 1/30rad 以上が確認された耐力壁（大臣認定を受けた耐力壁を含む）を原則とする。ただし、これ以外の耐力壁の加算の可否等については本評価の範囲外とし、設計者等が適切に検証し安全性を確認するものとする。

解説：

ただし書き～ の文言が、追加されております。（赤字記載）

今後考えられる耐力壁仕様の増加への対応措置として、改訂させて頂きました。

※なお、記載にある終局変形角が 1/30rad 以上の耐力壁については、お問い合わせください。

(2) 軸力影響係数規定の改訂

目的：

許容せん断力に影響を与える軸力影響係数（ $\beta$ ）を軸力の方向（引張および圧縮）ごとに細分化することで、お客様の要望にあった建物の実現性が高まります。（該当ページ：P.13/17）

変更前

変更後

**変更前**

圧縮・引張	BS 耐力壁柱の軸力		軸力影響係数（ $\beta$ ）	
	10kN 以下	20kN 以下	30kN 以下	40kN 以下
圧縮	0.93	0.89	0.85	0.82
	0.89	0.85	0.82	0.77
	0.85	0.82	0.77	
	0.82	0.77		
引張	0.93	0.89	0.85	0.82
	0.89	0.85	0.82	0.77
	0.85	0.82	0.77	
	0.82	0.77		

**変更後**

引張の割合	BS 耐力壁柱の軸力		軸力影響係数（ $\beta$ ）	
	10kN 以下	20kN 以下	30kN 以下	40kN 以下
引張	0.93	0.89	0.85	0.82
	0.89	0.85	0.82	0.77
	0.85	0.82	0.77	
	0.82	0.77		
圧縮の割合	30kN 以下	1.00		
	30kN を超え 50kN 以下	0.98		

※BS が 60 kN より大きな柱軸力を負担する場合は、本評価書【別記】に記載した軸力影響係数（ $\beta$ ）を検討した手法と同様に増分解析により軸力影響係数を算出し、設計用許容せん断耐力を調整することとする。  
 ※下表に示す方法により BS 耐力壁柱に生じる鉛直剪力を算定する。  
 鉛直剪力 原則、建築基準法施行令第 82 条および 85 条に定める荷重組合せ  
 算定方法 変形による  
 木造軸組工法住宅の許容応力度計算（2017 年版）の「増分算法に準拠した方法」

解説：

既評価上では、引張方向と圧縮方向の軸力影響係数を集約して構造計算としておりました。今回の評

価改訂により、構造計算が適切な条件（引張方向と圧縮方向を別に考慮する）にて計算できるようにしました。これにより、平屋建てのような大空間建物（軸力がほぼ圧縮方向で決定するような建物）では、構造計算の成立が容易になります。

## ご案内

ベースセッター設計に伴う構造計算ソフトの手順書のダウンロード先  
<https://www.kaneshin.co.jp/user/tools.php>

- ※「BS 耐力壁検定ツール・手順書」よりダウンロードいただけます。
- ※今回の改訂に伴い、構造計算ソフト毎の手順書を新たに作成致しました。
- ※初回のみユーザー登録が必要です。

BXカネシンについて



BXカネシンは木造建築サポート企業として、そして社会の一員として、SDGs（持続可能な開発目標）のGOALへ、皆様とともに歩んでまいります。

### ●本書に関するお問合せ

BXカネシンCSセンター Tel. 03-5671-1077